

世界の外貨準備の通貨構成から見えること

世界の外貨準備の通貨構成(2025年第三四半期末)のデータがIMFから発表された。このデータから読み取れるポイントを挙げる。

世界の基軸通貨のドルの割合は56%台に低下し、これまでで最低となった。長期低減傾向が続いている。57%台に低下した前期は為替レートの影響が大きかったが、今回はその影響はほとんどなかった。前期(Q2)はトランプ関税の発表でドルの為替レートが大きく低下し、ドル以外の通貨のドル価格が上昇したためドルの割合が相対的に低下した。ドル資産からの流出はあまりなかった。

新年早々トランプ大統領の米国はベネズエラに侵攻した。大統領夫妻を拘束し、米国に連れてきた。南米諸国をはじめ世界には米国の行動原理のリスクをあらためて現実問題として捉え直す国も少なからずあったに違いない。その一環には資産のポートフォリオの見直しも含まれる。これは経済制裁のリスクに対応するのと似た点がある。つまりロシアやイランはドル資産から離れた。

これは昨年Q2にトランプ関税の発動が引き起こしたドル離れとは異なる。この時はドル資産から離れたのではなく、ドルの為替レートリスクから逃れた。米国債を売ったのではなく、ドル為替の先物を売るヘッジ取引だった。

こうした点を踏まえると今後外貨準備のドルの割合の低下はさらに進むと思われる。

次に通貨ごとに今回発表のQ3のデータを見ていく。

- 1) ドルの割合は56.92%だった。最低水準を更新した。
- 2) ユーロの割合は20.33%だった。前期から増加し、ドルの受け皿として機能している。ユーロ圏は多くの政治的、経済的問題を抱え停滞感は拭えないが、今年からブルガリアが新たにユーロ圏に加わったのは、ユーロが発展の歩みを止めないことを示した。ポジティブなことだ。

- 3) 人民元の割合は 1.93%だった。前期から低下した。低下傾向に歯止めがかかるない。国際取引の決済などフローベースでは存在感を示す人民元だが、外貨準備など価値保存の役割を担うストックベースでは影が薄い。この点では人民元を国際通貨と位置付けるのは難しい。
- 4) 円の割合は 5.82%だった。前期より増加した。地政学リスクの高まりが常態化する中で安全通貨としての円の役割には底堅い需要がある。金利が上昇傾向な点も円への需要には追い風になる。
- 5) ポンドの割合は 4.46%だった。前期から低下した。2年間を見ても最低水準だ。
- 6) カナダドルとオーストラリアドルの割合はそれぞれ 2.66%、2.06%だった。
- 7) その他通貨の割合は 5.64%だった。ここしばらく常に前期より増えている。強い増加傾向を示している。通貨の多極化傾向、ポートフォリオ分散という現在のトレンドを象徴する現象だ。

以上です。